

# 平成 17 年度事業報告

平成 17 年 4 月 1 日から

平成 18 年 3 月 31 日まで

社団法人 日韓経済協会

## 目 次

I. 総 会	-----	1
II. 理事会	-----	4
III. 政策委員会	-----	7
IV. 日韓・韓日経済人会議		
A. 第 37 回日韓・韓日経済人会議	-----	8
B. 専門委員会		
第 7 回日韓・韓日産業貿易会議	-----	14
V. その他の主要事業活動		
A. 調査広報活動	-----	15
B. ミッションの受入れ派遣及びその協力	-----	18
C. 特別事業（青少年交流事業）	-----	19
VI. その他事業及び出来事等	-----	20
VII. 会員異動	-----	24

# I. 総 会

## A. 第21回通常会員総会

第21回通常会員総会は平成17年6月9日東京都千代田区大手町1-9-4経団連会館902号室で開催された。定款規定により瀬戸雄三会長を議長に選出した後、下記議案が審議の結果満場一致で原案どおり可決承認された。

1. 日 時 平成17年6月9日(木)  
開 会 午後2時00分  
閉 会 午後3時20分
  
2. 場 所 東京都千代田区大手町1-9-4  
経団連会館 902号室
  
3. 正 会 員 総 数 110名
  
4. 出席正会員社数 95名  
(内 訳)  
出席した正会員社 23名  
委 任 状 72名

## 5. 議事

- 第1号議案 平成16年度事業報告承認の件
- 第2号議案 平成16年度収支決算報告承認の件
- 第3号議案 平成17年度事業計画(案)審議の件
- 第4号議案 平成17年度収支予算(案)審議の件
- 第5号議案 理事選任承認の件

### I. 新任理事

田 崎 雅 元 (川崎重工業株式会社代表取締役社長)

蛭 田 史 郎 (旭化成株式会社代表取締役社長)

矢野 薫 (日本電気株式会社代表取締役副社長)

古賀 信行 (野村證券株式会社執行役社長)

## II. 退任理事

山口 信夫 (旭化成株式会社代表取締役会長)

篠原 巖 (日本電気株式会社顧問)

鈴木 政志 (野村證券株式会社常任顧問)

## 6. 報告事項

### (1) 事務局長委嘱の件

秋山 迪 (社団法人日韓経済協会専務理事付)

### (2) 新規加入会員の件

### (3) 第37回日韓・韓日経済人会議の件

### (4) 次回経済人会議の件

## B. 平成17年度臨時会員総会

平成17年度臨時会員総会は平成18年3月23日東京都千代田区一番町8番地社団法人日韓経済協会会議室で開催された。定款規定により瀬戸雄三会長を議長に選出した後、下記議案が審議の結果満場一致で原案どおり可決承認された。

- |              |     |                                 |
|--------------|-----|---------------------------------|
| 1. 日         | 時   | 平成18年3月23日 (木)                  |
|              | 開 会 | 午後3時30分                         |
|              | 閉 会 | 午後4時20分                         |
| 2. 場         | 所   | 東京都千代田区一番町8番地<br>社団法人日韓経済協会 会議室 |
| 3. 正 会 員 総 数 |     | 115名                            |

4. 出席正会員社数 81名  
(内 訳)  
出席した正会員社 3名  
委任状 78名

5. 議事

第1号議案 平成18年度事業計画案審議の件

第2号議案 平成18年度収支予算案審議の件

第3号議案 理事選任承認の件

1. 理事候補者 青柳明雄 社団法人関西経済連合会  
常務理事・事務局長兼国際交流本部長  
森 洸 丸紅株式会社常務取締役  
相原元八郎 三井物産株式会社代表取締役専務執行役員  
飯島英胤 東レ株式会社特別顧問
2. 退任理事 藤本明夫 元社団法人関西経済連合会専務理事  
高捷雄 丸紅株式会社取締役  
永田宏 三井物産株式会社顧問  
前田勝之助 東レ株式会社名誉会長

6. 報告事項

(1) 新規加入会員の件

## Ⅱ. 理 事 会

### A. 平成17年度第1回理事会

1. 日 時 平成17年5月31日(火) 午後2時～3時30分

2. 場 所 社団法人日韓経済協会 会議室

3. 議 案

議案1. 第21回通常会員総会開催の件

議案2. 第21回通常会員総会付議事項承認の件

(1) 平成16年度事業報告

(2) 平成16年度収支決算報告

(3) 平成17年度事業計画(案)

(4) 平成17年度収支予算(案)

(5) 理事選任承認の件

議案3. 理事会承認(総会報告)事項

(1) 事務局長委嘱の件

(2) 新規加入会員承認の件

### B. 平成17年度第2回理事会

1. 日 時 平成17年6月9日(木) 午後3時20分～3時25分

2. 場 所 経団連会館 902号室(9階)

3. 議 案

議案1. 副会長互選の件

I. 副会長候補者

古 賀 信 行 (野村證券株式会社執行役社長)

### C. 平成17年度第3回理事会

1. 日 時 平成17年9月21日(水) 午後2時～2時30分

2. 場 所 社団法人日韓経済協会 会議室

### 3. 議 案

#### 議案 1. 理事選任承認の件

##### I. 理事候補者

青 柳 明 雄 (社団法人関西経済連合会  
常務理事・事務局長兼国際交流本部長)

##### II. 退任理事

藤 本 明 夫 (元社団法人関西経済連合会専務理事)

### D. 平成17年度第4回理事会

1. 日 時 平成17年12月22日(木) 午後3時～4時

2. 場 所 社団法人日韓経済協会 会議室

### 3. 議 案

#### 議案 1. 理事選任承認の件

##### I. 理事候補者

森 洸 (丸紅株式会社常務取締役)

相 原 元八郎 (三井物産株式会社代表取締役専務執行役員)

##### II. 退任理事

高 捷 雄 (丸紅株式会社取締役)

永 田 宏 (三井物産株式会社顧問)

#### 議案 2. 新規加入会員承認の件

### E. 平成17年度第5回理事会

1. 日 時 平成18年2月14日(火) 午後3時～午後3時30分

2. 場 所 社団法人日韓経済協会 会議室

### 3. 議 案

#### 議案 1. 理事選任承認の件

##### I. 理事候補者

飯 島 英 胤 (東レ株式会社特別顧問)

##### II. 退任理事

前 田 勝之助 (東レ株式会社名誉会長)

#### F. 平成17年度第6回理事会

1. 日 時 平成18年3月23日(木) 午後3時～午後3時30分

2. 場 所 社団法人日韓経済協会 会議室

3. 議 案

議案1. 平成17年度臨時会員総会開催の件

議案2. 平成17年度臨時会員総会付議事項承認の件

(1) 平成18年度事業計画(案)

(2) 平成18年度収支予算(案)

(3) 理事選任承認の件

#### G. 平成17年度第7回理事会

1. 日 時 平成18年3月23日(木) 午後4時15分～午後4時20分

2. 場 所 社団法人日韓経済協会 会議室

3. 議 案

議案1. 副会長互選の件

I. 副会長候補者

飯 島 英 胤 (東レ株式会社特別顧問)

### Ⅲ. 政 策 委 員 会

平成2年度に設置された、協会の会長、副会長、専門委員会委員長、関係経済団体の常勤役員等で構成する政策委員会は、本年度は1回開催し、瀬戸雄三会長を議長として次の議題を審議した。

#### A. 平成17年度第1回政策委員会

1. 日 時 平成18年2月17日(金) 午前10時30分～12時
2. 場 所 経団連会館 901号室
3. 議 案
  - (1) 協会の現状報告と平成18年度事業概略
  - (2) 第38回日韓・韓日経済人会議概要
  - (3) 韓国情勢について(報告)

## IV. 日韓・韓日経済人会議

### A. 第37回 日韓・韓日経済人会議

第37回経済人会議は、4月14日、15日の二日間、大韓民国ソウル特別市において、韓国側からは趙錫来団長など145名、日本側からは瀬戸雄三団長など103名が出席して開催された。

この会議は、日韓両国の民間経済界を代表する企業及び経済団体の代表者が一堂に会して、相互に意見を交換し交流と親睦を深めているもので、1969年以来毎年1回、日本と韓国とを交互に主催地として、民間合同経済委員会という名称で開催されてきた。1998年の第30回会議から名称が経済人会議に変更された。

4月14日の開会式では両側団長挨拶に続き、盧武鉉大統領並びに小泉純一郎首相のメッセージ代読と、韓惠洙副総理兼財政経済部長官、高野紀元駐韓日本国特命全権大使の来賓祝辞があり、その後特別功労賞が朴泰俊(社)韓日経済協会名誉会長及び藤村正哉(社)日韓経済協会相談役に授与された。

次いで全体会議で一般経過報告(書面)、産業貿易会議報告があった。その後日韓両国から1つずつの主題発表があった。

次に基調講演が行われた。日本側は奥田碩・日本経済団体連合会会長で演題は「重層的な日韓関係の構築に向けた経済界の役割」。韓国側は尹鍾龍(ユン・ジョンヨン)三星電子(株)代表理事副会長で演題は「韓日経済協力40年の回顧と展望」。

初日の会議が終了した後、日韓・韓日両経済協会共催で、ソウル特別市が後援をしてレセプションが催された。

15日の会議では、午前中に「経済連携(連帯)と今後の日韓企業間の協力方案について」とのテーマで第1分科会、第2分科会を並行して行い、主題発表後、フロアから自由発言方式によって意見を交換した。午後は主題発表・共同声明発表の後、閉会式を行って終了した。

### 会 議 次 第

【2005年4月14日(木)】

15:30~16:25 開会式 ソウル新羅ホテル2F ダイナスティ I・II

- |                     |         |       |               |
|---------------------|---------|-------|---------------|
| (1) 団長挨拶            | 韓国側     | 趙 錫 来 | 団長            |
|                     | 日本側     | 瀬戸 雄三 | 団長            |
| (2) 首脳メッセージ代読       | 盧武鉉大統領  | 全 飛 虎 | 外交通商部審議官      |
|                     | 小泉純一郎首相 | 山本 栄二 | 駐韓日本大使館公使     |
| (3) 来賓祝辞            | 韓国側     | 韓 惠 洙 | 副総理兼財政経済部長官   |
|                     | 日本側     | 高野 紀元 | 駐韓国日本国特命全権大使  |
| (4) 特別功労賞授賞式及び受賞者挨拶 | 韓国側     | 朴 泰 俊 | (社)韓日経済協会名誉会長 |
|                     | 日本側     | 藤村 正哉 | (社)日韓経済協会相談役  |

**16：40～17：40 基調講演 ソウル新羅ホテル2F ダイナスティⅠ・Ⅱ**

- (1) 韓国側 「韓日経済協力40年の回顧と展望」  
尹 鍾 龍 (ユン・ジョンヨン) 三星電子(株)代表理事副会長
- (2) 日本側 「重層的な日韓関係の構築に向けた経済界の役割」  
奥 田 碩・日本経済団体連合会会長

**17：40～17：50 経過報告 ソウル新羅ホテル2F ダイナスティⅠ・Ⅱ**

- (1) 一般経過報告 (書 面)
- (2) 産業貿易会議報告 李 錫 瑛 (イ・ソギョン) 韓国産業貿易会議  
チェアマン

**18：30～20：30 レセプション ソウル新羅ホテル2F ダイナスティⅠ・Ⅱ**

日韓・韓日経済協会共同主催、ソウル特別市後援

**〔2005年4月15日(金)〕**

**09：00～12：00 分科会**

テーマ：「経済連携（連帯）と今後の日韓企業間の協力方案について」

**第1分科会 ソウル新羅ホテル2F ダイナスティⅡ**

- (1) コーディネーターによる分科会進行要領説明  
韓国側 成 在 甲 (ソン・ジェガップ) LG石油化学(株)顧問  
日本側 飯島 英胤 東レ(株)特別顧問
- (2) バックグラウンドペーパー発表  
韓国側主題「韓日鉄鋼協力の成功事例と今後の協力方向」  
劉 常 夫 (ユウ・サンブ) (株)POSCO顧問  
日本側主題「素材産業における日韓経済連携事例と今後の展望」  
鮫島 章男・太平洋セメント(株)社長

(3) 自由討論

(4) 両国コーディネーター総括

**第2分科会 ソウル新羅ホテル2F ダイナスティⅢ**

- (1) コーディネーターによる分科会進行要領説明  
韓国側 金 熙 勇 (キム・ヒヨン) 東洋物産企業(株)会長  
日本側 清水 紘一郎 (株)ホテルオークラ副社長
- (2) バックグラウンドペーパー発表  
韓国側主題「韓中日文化共同体の可能性と問題点」  
李 御 寧 (イ・オリョン) 中央日報顧問 (初代文化部長官)  
日本側主題「日韓海峡交流圏の現状と今後の展望」  
石 原 進・九州旅客鉄道(株)社長

- (3) 自由討論
- (4) 両国コーディネーター総括

**12:00~13:30 昼食会**

- (1) 団長・副団長・顧問・専門委員長・コーディネーター（共同声明案審議）3F ライラック
- (2) 一般団員…………… 迎賓館2F エメラルド&1F ルビー

**13:30~15:20 全体会議 ソウル新羅ホテル2F ダイナスティ I**

- (1) 共同議長挨拶
  - 韓国側 薛元鳳（ソル・ウォンボン）副団長  
（大韓製糖株式会社会長）
  - 日本側 麻生泰 副団長  
（麻生ラファージュセメント株式会社社長）
- (2) 主題発表
  - 韓国側主題「韓日間の負の遺産をいかに克服すべきか」  
孔魯明（コン・ノミョン）元駐日韓国大使・元外務部長官
  - 日本側主題「日韓関係の現状と展望」  
寺田輝介（財）フォーリンプレスセンター理事長
  - 韓国側主題「韓国と共に、東北アジアを超えて世界へ」（映像画面）
- (3) 分科会コーディネーター報告
  - 1) 第1分科会 成在甲（ソン・ジェガブ）コーディネーター
  - 2) 第2分科会 金熙勇（キム・ヒョン）コーディネーター
- (4) 質疑応答
- (5) 議長総括

**15:40~16:00 閉会式 ソウル新羅ホテル2F ダイナスティ I**

- (1) 共同声明発表
- (2) 団長挨拶
  - 韓国側団長 趙錫來
  - 日本側団長 瀬戸雄三

## 共 同 声 明

第37回日韓・韓日経済人会議は2005年4月14日、15日の二日間、大韓民国ソウルにて、韓国側から趙錫來団長等145名、日本側から瀬戸雄三団長等103名が出席して開催された。

1. 全体会議では書面による一般経過報告の後、第6回日韓産業貿易会議（2004年11月、韓国慶州）について報告があった。
2. まず、基調講演などを通じて両国経済人は世界経済、両国経済および両国関係について次のように基本認識を共にした。

世界経済は、原油価格急騰の長期化と米国の双子の赤字拡大および成長鈍化などのリスクを懸念する見方もあるが、概ね好調に推移している。中国経済も財政および金融の引締めによって成長率がやや鈍化してはいるものの、ソフト・ランディングしつつある。

一方、韓国経済は昨年、対前年比で30%の輸出の伸びを記録したにもかかわらず内需が振るわず、業種間・企業間業績の二極化など、マクロ指標と景気体感の間に乖離が見られたが、今年に入って回復の兆しが現れている。

日本経済は、昨年の後半以降、調整局面が続いたが、設備投資が引き続き好調で、個人消費も持ち直しており、今年後半から回復軌道に向かうべく、民間等は努力を続けている。

最近、東アジア地域では、FTA締結に向けた動きが活発化している。両国は友好・協力関係から、21世紀の戦略的パートナーシップを目指す関係に変化しており、日韓FTAはそのための象徴的な第一歩である。両国の経済活動を円滑にし、両国の構造改革を促進する包括的でハイレベルなFTAの年内の締結が強く求められる。

過去40年間の両国経済は、両国企業が相互にWin-Winの協力関係を構築しており、最近では、新たな産業分野でも多様でかつ実質的な協力が活発に進められている。こうした流れの中で今後の両国はFTA締結を通じて、調和しかつバランスある分業構造を構築し、共存共栄の好循環を作り出していかなければならない。このため、韓国側からは日本側が農水産物分野の自由化水準において、世界第2位の経済大国に見合った力量を発揮することが期待されており、その為にも両国は真摯な議論を継続・強化すべきであり、両国経済人も自ら貢献することが望まれる。

何よりも両国経済人を含めすべての関係者は事実に基づき正しいこと、正しくないことを明らかにしながら、未来志向的で率直な対話を通じて諸問題を解決する努力が必要である。

3. 各分科会と全体会議での意見発表と議論を通じて、両国経済人は次の事項について意見の一致をみた。

(1) 東アジアにおけるコミュニティ形成および安定と繁栄に向けた取り組みが今後進む中、両国は「東アジア共同体」を目指しつつ、そのモデルとなる包括的な日韓FTA締結のため、経済人と政府が一つとなって一層の努力を傾けなければならない。そのためにも日韓産業間協力を活性化・成熟化させ、鉄鋼等素材産業の成功事例を生かし、両国産業・企業間の理解促進と信頼構築を図る努力が一層望まれる。

(2) 部品および素材産業は、両国製造業の国際競争力を支える産業であり、この分野においても両国は「De Facto Standard（事実上の標準）」を主導していく必要がある。

最近、この分野で両国の戦略的提携事例が増加している点を評価し、自由な経済活動を阻害する既存の規定や制度の改革のため、両国経済人はこれまで以上にその英知を集めていかななくてはならない。

(3) 近年、韓国では日本大衆文化、日本では韓流ブームに見られるように、両国の国民レベルで、互いの関心と親しみが広まっている点を極めて肯定的に評価した。これを土台にして東北アジア地域の協力と地域共通の利益を引出すための体系的な文化協力促進のための枠組みを構成することに大きな関心が表明された。潜在的な成長率が高い文化産業分野における今後の新たな両国間連携が大いに期待される。

(4) 最近、金浦－羽田間の定期チャーター便など、両国間の旅客および物流の高速交通体系整備および拡充は両国関係を増進させる役割を果たしており、観光、レジャー開発、情報サービスなどの分野における交流を促進するための短期滞在ビザ免除など、人的交流条件の緩和に両国は一層努力しなければならない。

(5) 日韓両国は、東北アジアで、自由民主主義と市場経済という価値観を共有してきた自由友邦であり、同盟関係の運命的な隣国として友好協力増進と双方相互信頼を積み重ねてきた。最近、浮上している両国間の政治的・外交的な葛藤が友好的な日韓関係にマイナスの影響を及ぼすことが懸念され、両国政府の未来指向的な観点からの冷静な対処が望まれる。さらに両国国民も、経済・文化など非政治的な面での持続的な発展のため全力を傾けていくことを訴え、両国の経済人が、自らの積極的な行動によってその役割を果たす必要があるということと認識を同じくした。

4. 両国経済人は、別添事項を両国協会レベルで進めることに合意した。

5. 次回の会議は、来年日本で開催する。

2005年4月15日

日本側代表団団長 瀬戸 雄三

韓国側代表団団長 趙 錫 來

[別 添]

合 意 事 項

- (1) 包括的でハイレベルな日韓F T Aの年内の締結のため協力する件
- (2) 「産業貿易会議」開催に協力する件
- (3) 「訪日輸出促進団」(韓国商品商談会)派遣とその受入れに協力する件
- (4) 両国「産業技術協力財団」事業に協力する件
- (5) 「青少年交流事業」として日韓高校生交流に関し相互協力する件
- (6) 両国中小企業の「相互補完事業」に関して協力する件
- (7) その他日韓・韓日両協会の合意の下に推進される事業に協力する件

## B. 専門委員会

### 第7回 日韓・韓日 産業貿易会議

本会議は、1998年度まで実施していた3つの専門委員会の内、「貿易投資委員会」（76年から25回）、「機械工業委員会」（77年から24回）、「産業一般委員会」（91年から4回）を一つに統合し、より高い次元での認識の共有と合意の形成を目指して、情報と意見交換を図るべく、99年度から新たに発足させたものである。

その意味において、言わば「春」の経済人会議の重要な「秋」のフォローアップとして位置付けられる唯一の専門委員会であり、少人数による自由討議が出来る貴重な場でもある。

2005年度は第7回を迎え以下のとおり2日間にわたって、両国の経済人にとって時宜を得た、かつ関心の高いテーマで、二つのセッションを実施した。席上、参加委員のフリーな立場を担保（非公表）した意見交換、情報交換が熱心に行われた。概要は以下の通り。

(1) 日時・場所：2005年11月21日（月）・22日（火）

日本国京都府「京都全日空ホテル」

(2) 出席者：日本側 麻生泰チェアマン（麻生ラファージュセメント(株)社長）  
高梨圭介コーディネーター（(社)日本貿易会専務理事）  
はじめ33名

韓国側 李錫瑛チェアマン（(社)韓国貿易協会常勤副会長）  
李洙喆コーディネーター（三星物産(株)副社長）  
はじめ34名

(3) プログラム：

<セッションⅠ：日韓企業の競争力と連携の深化>

日本側発表…「東レグループの韓国における事業運営」森野仁 東レ取締役

韓国側発表…「韓日企業連携の現況と今後の展望」金達雄 LGジャパン社長

自由討議

<セッションⅡ：アジア地域連携の進展と日韓関係>

日本側発表…「FTA時代の課題－原産地規則と企業」

谷口正樹 日本機械輸出組合 通商投資グループリーダー

韓国側発表…「韓日経済と文化・人的交流」奇乗泰 JAMAC 経営顧問

自由討議

<今後の当会議の在り方>

自由討議

## V. その他主要事業活動

### A. 調査広報活動

#### 1. 資料、情報の提供

##### (1) 定期刊行物

###### ① 『協会報』(月刊)

韓国の刊行物・雑誌・新聞・中央官庁及び韓国銀行のホームページ等をニュースソースとして、経済記事を中心に翻訳・編集の上、395号(05年4月号)から405号(06年3月号)まで11冊を発行し、会員会社・団体等に配布した。

特に、2005年度は、盧武鉉政権3年目に入り、行政新都市の建設(公企業の地方移転)決定、安全企画部(国家情報院の前身)による不法盗聴事件(Xファイル・政局の5ヵ月間混乱)、私学法など3大立法の強行採決の波紋といった時代の流れを踏まえ、05年下半年(7~12月期)に入り回復傾向を示し始めた韓国経済の動向を取りまとめた。

また、輸出企業と内需企業、大企業と中小零細企業、正規職と非正規職、富裕層と中下層の所得格差などの経済の二極化現象、少子高齢化問題、三高現象(ウォン高・原油高・金利高)、FTA問題を可能な限り掲載することに努めた。

更に、10月号は創刊400号記念特集号とした。日韓経済人会議の隠された秘話、副会長他関係者とのインタビュー、協会報の歩み、既刊協会報の一覧、韓国・日韓関係の変遷史を中心に取りまとめた。

在韓日本人ビジネスマンによる“ハローソウル”と“最近の金融・企業動向”は継続連載した。また、協会報の性格上、マクロ経済指標を中心とする資料面の充実にも注力した。

従来同様、会長・副会長会社及び支援団体の実務者より構成された編集委員会を毎月開催し、内容の充実を図るべく検討した。

各号の主要内容は別紙の通りである。

###### ② 『日韓経済協会通信』(週刊)

韓国の主要経済紙・日刊紙・中央官庁及び韓国銀行のホームページ等の翻訳による速報記事を中心に『週刊 日韓経済協会通信』のタイトルのもと、Eメール送信(一部ファクシミリ送信)による週刊発行(毎週金曜日発行)を行い、第695号から第741号までの47号を発行した。

また、当該週に調査部が翻訳した資料のうち、未掲載のタイトル一覧を本通信に掲載し、会員からの要望に応じてEメール送信(一部ファクシミリ送信)するサービスを行っているが、個別提供サービスとして好評を博し、多数利用されている。

(2) 別冊資料発行

- ① J K E 調査レポート『日韓・韓日青少年交流事業 日本から韓国へ、韓国から日本へー大学生交流の 20 年ー』…………… (2005 年 8 月)
- ② J K E 調査レポート『統計で見た世界の中の韓国』…………… (2005 年 9 月)
- ③ J K E 調査レポート『最近の韓国経済動向』…………… (2005 年 10 月)

(3) 協会ホームページの仕様変更及び月次更新の実施 (2005 年 7 月～)

**2. 会員懇話会の開催**

会員各社の関係者を対象として、韓国事情に関する講演、講師を交えた懇談、情報交換及び会員相互の交流を目的として、本年度は下記の内容で 3 回開催した。参加者は毎回 35 名前後、場所は協会会議室。

第 88 回

月 日：2005 年 6 月 14 日 (水) 午後 4 時～6 時頃  
講 師：鈴置 高史氏 (日本経済新聞社経済解説部編集委員)  
テーマ：「北朝鮮の核問題はどうか」

第 89 回

月 日：2005 年 11 月 24 日 (木) 午後 4 時～6 時頃  
講 師：高杉 暢也氏 (韓国富士ゼロックス(株)最高顧問・ソウルジャパンクラブ (S J C) 理事長)  
テーマ：「“ケンチャナヨ経営”と“クレヨ経営”」

第 90 回

月 日：2006 年 3 月 17 日 (金) 午後 4 時～6 時頃  
講 師：深川 由起子氏 (東京大学大学院総合文化研究科・教養学部教授)  
テーマ：「韓国の労働市場と人的資源」

**3. 経済関係資料の整備**

従来に引き続き、経済を中心とした韓国関係資料の収集・整備に努めたが、平成 17 年度においては、次の点に留意した。

- (1) 韓国の経済統計関連資料の入手に努めた。
- (2) 対外経済政策研究院 (K I E P)、韓国産業研究院 (K I E T)、大韓石油協会との資料交換を行ない関連資料の幅を広げた。



B. ミッションの受け入れ・派遣及びその協力

1. 第4回日韓中小企業セミナー・商談会

(1) 日時・場所

2005年5月17～19日 日本 東京

(2) 参加者

日本側：47社 韓国側：18社

2. 第5回日韓中小企業セミナー・商談会

(1) 日時・場所

2005年10月27～28日 韓国 ソウル

(2) 参加者

日本側：14社 韓国側：59社

## C. 特別事業（青少年交流事業）

### 1. 高校生交流事業

日韓両国経済協会が協力して1985年から20年間続けた大学生交流事業に替え、更に若い世代の交流増進を目指し、2004年から日韓の高校生による交流事業を開始した。2004年1月東京にて「日韓高校生経済キャンプ」という交流会を実施し、その後継続的に開催している。

2005年度は、8月に第5回キャンプを、翌年2月に第6回を共に東京で開催した。これまで6回の交流キャンプにより日韓の高校生延べ600人近くの交流が実現した（下表参照）。

この交流キャンプでは、両国の高校生が3泊か4泊の合宿形式で寝食を共にし、真の友情を育むことを目的としている。参加者を10人前後の日韓混成チームに分け、両国の観光・文化を売り込む企画をチーム毎に作成して発表する。この共同作業を通じて密度の濃い交流を促進することが本プログラムの最大の特徴である。共通の課題に取り組み、真剣な討議と作業を通じて親交を深めた結果、他人から与えられた偏見ではなく自分自身の感覚としてお互いの相違点と共通点を認識できるようになる。同年代の若者同士で友情が芽生え、キャンプ後の交流継続を約して感動の涙の別れとなる。

このように深く理解し合った若者たちが、いずれ両国経済界でリーダーシップを発揮することにより、必ずや未来志向で親密な日韓関係構築の基礎となるものと期待する。そのために、このような草の根的交流事業を着実に継続し、発展させていくことが必要である。

なお、本キャンプは両国政府関係当局の後援および様々な助成・協力を得て実現している。また2005年は日韓友情年であり、その記念事業としてキャンプを開催し、その実行委員会主催行事にも協力した。

回数	場所	日程	日本側	韓国側	参加者合計
第1回	東京(アサヒビール本社)	2004年1月16～20日	62人	50人	112人
第2回	東京(よみうりランド)	2004年7月26～30日	20人	52人	72人
第3回	ソウル(オリンピックパーク)	2004年8月18～22日	46人	48人	94人
第4回	東京(羽田研修センタ)	2005年2月11～15日	64人	54人	118人
第5回	東京(羽田研修センタ)	2005年8月6～10日	44人	46人	90人
第6回	東京(羽田研修センタ)	2006年2月9～13日	59人	47人	106人
延べ参加人数			295人	297人	592人

## VI. その他事業及び出来事等

### 1. 日本経済団体連合会定例理事会での経済人会議報告

1. 日 時：平成 17 年 5 月 11 日
2. 場 所：経団連会館
3. 訪問者：瀬戸会長、秋山専務理事付

### 2. 故鈴木政志元副会長告別式参列

1. 日 時：平成 17 年 5 月 17 日
2. 場 所：芝増上寺光撰殿
3. 参加者：瀬戸会長、平木専務理事

### 3. 「日韓 40 周年国際学術会議」出席

1. 日 時：平成 17 年 6 月 2～4 日
2. 場 所：ソウル
3. 参加者：平木専務理事

### 4. 外務大臣表彰受賞

1. 日 時：平成 17 年 7 月 8 日
2. 場 所：外務省飯倉公館
3. 参加者：秋山富一副会長、下出常務理事

### 5. 「協会報」400号記念特集座談会

1. 日 時：平成 17 年 7 月 14 日
2. 場 所：協会会議室
3. 参加者：石原元専務理事、村上元専務理事、御巫前専務理事、並木前常務理事、小野前部長、東島前部長、色摩前部長

### 6. 日韓経済連携検討会出席

1. 日 時：平成 17 年 7 月 20 日
2. 場 所：経団連会館
3. 参加者：瀬戸会長、平木専務理事

#### 7. 駐韓日本大使館大島大使との懇談

1. 日 時：平成 17 年 7 月 29 日
2. 場 所：アサヒビール(株)本社
3. 参加者：瀬戸会長、平木専務理事

#### 8. 駐日韓国大使館朴承武公使との懇談

1. 日 時：平成 17 年 8 月 12 日
2. 場 所：韓国大使館
3. 参加者：瀬戸会長、平木専務理事、金秀庭職員

#### 9. 第 13 回日韓フォーラム出席

1. 日 時：平成 17 年 8 月 29～31 日
2. 場 所：済州島
3. 参加者：瀬戸会長、平木専務理事、金秀庭職員

#### 10. 日本経団連・韓国全経聯首脳懇談会参加

1. 日 時：平成 17 年 9 月 27 日
2. 場 所：経団連会館
3. 参加者：秋山事務局長(傍聴)

#### 11. 「協会報」400号記念特集号発行

1. 日 時：平成 17 年 10 月 1 日

#### 12. 韓国建国記念日パーティー出席

1. 日 時：平成 17 年 10 月 3 日
2. 場 所：ホテルニューオータニ
3. 参加者：瀬戸会長、鮫島副会長、平木専務理事、下出常務理事

#### 13. (社)韓日経済協会趙錫来会長懇談

1. 日 時：平成 17 年 10 月 31 日
2. 場 所：アサヒビール(株)本社
3. 参加者：瀬戸会長、平木専務理事

**14. 「日韓友情年 2005」記念コンサート/韓国経済団体長面談**

1. 日 時：平成 17 年 12 月 6～8 日
2. 訪問先：ソウル、韓国貿易協会金在哲会長、全国経済人聯合会姜信浩会長、韓日経済協会趙錫来会長、韓日経済協会金相廈前会長
3. 訪問者：瀬戸会長、平木専務理事、金秀庭職員

**15. 韓日経済協会との定期業務協議**

1. 日 時：平成 17 年 12 月 13 日
2. 場 所：協会会議室
3. 出席者：両専務理事以下

**16. 羅鍾一駐日大韓民国特命全権大使訪問**

1. 日 時：平成 17 年 12 月 19 日
2. 場 所：韓国大使館
3. 参加者：瀬戸会長、平木専務理事

**17. 「日韓友情年・対話の広場」参加・運営協力**

1. 日 時：平成 17 年 12 月 26～28 日
2. 場 所：ソウル
3. 参加者：瀬戸会長、平木専務理事、初瀬川部長、金秀庭職員

**18. 日本貿易会新年懇談会出席**

1. 日 時：平成 18 年 1 月 10 日
2. 場 所：ホテルニューオータニ
3. 参加者：平木専務理事、下出常務理事、秋山事務局長

**19. 故杉浦敏介元会長告別式参列**

1. 日 時：平成 18 年 2 月 1 日
2. 場 所：千日谷会堂
3. 参加者：平木専務理事

**20. 日韓経済人トップ会合出席**

1. 日 時：平成 18 年 2 月 22 日
2. 場 所：東京 トヨタ迎賓館
3. 参加者：日本側：(社)日本経済団体連合会奥田会長、東レ(株)平井相談、(社)日韓経済協会瀬戸会長

韓国側：全国経済人联合会姜信浩会長、韓国貿易協会金在哲会長、(社)韓日経済協会趙錫来会長、(社)韓日経済協会金相廈前会長

## 21. 会長副会長懇談会

1. 日時：平成18年2月23日
2. 場所：交詢社
3. 参加者：瀬戸会長、渡里副会長、秋山副会長、荒木副会長、香西副会長、鮫島副会長、蛭田副会長、石原副会長、麻生副会長、飯島理事、藤村相談役、成田財団専務理事、山崎財団常務理事、下出常務理事、秋山事務局長、羅鍾一大使、朴承武公使、徐錫崇商務官

## 22. 韓国有力ジャーナリストとの懇談

1. 日時：平成18年3月9日
2. 場所：帝国ホテル
3. 参加者：東亜日報李東官論説委員、朝鮮日報李濬論説委員、中央日報李哲浩論説委員、韓国経済新聞李東宇副局長、毎日経済新聞黄ホソヒョン科学技術部長、ハンギョレ新聞鄭ヨム経済部長、瀬戸会長、秋山事務局長

## 23. 韓国開かれたウリ党議員団との懇談

1. 日時：平成18年3月22日
2. 場所：アサヒビール(株)本社
3. 参加者：徐恵錫議員、金東喆議員、李仁栄議員、瀬戸会長、秋山事務局長

## Ⅶ. 会 員 異 動

### 1. 入 会

#### (1)正 会 員

会員名	代表者	入会年月日
野村総合研究所株式会社	執行役員 此本臣吾	17. 4. 1
日本通運株式会社	首都圏旅行支店・支店長 三橋英二	17. 4. 1
高砂香料工業株式会社	取締役社長 武 弘樹	17. 4. 1
大昭和紙工産業株式会社	代表取締役社長 若林 茂	17.10. 1
鹿島建設株式会社	代表取締役社長 中村満義	17.10. 1
凸版印刷株式会社	専務取締役 恒田良明	17.10. 1
株式会社大林組	代表取締役社長 脇村典夫	17.10. 1
株式会社インジェスター	代表取締役 吳 希 昌	17.12. 1

### 2. 退 会

#### (1)協力会員

株式会社スリーエーネットワーク	18. 3.31
新キャタピラー三菱株式会社	18. 3.31

### 3. 平成 18 年 3 月 31 日現在

正会員数	1 1 5 社
協力会員数	1 3 社

以上